



49th year

- 1 株主の皆様へ
- 4 組織変更について
- 5 事業内容
- 6 トピックス
- 7 当社の歴史
- 8 セグメント別状況
- 9 財務ハイライト
- 10 連結財務諸表

第49期 決算報告

2015年4月1日～2016年3月31日

株式会社 エヌアイディ



株主の皆様におかれましては、平素より当社グループに格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに当社グループ2015年度（第49期）の連結決算概況をご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続いておりましたが、中国の景気減速、米国の短期金利引き上げ、日銀のマイナス金利政策により円相場・株式相場が不安定化するなど先行きの不透明感は増大しております。

当社グループの属する情報サービス業界においては、景気の先行き不透明感は増大しているものの、企業のIT投資は緩やかな増加傾向で推移しました。

こうした状況の中、当社グループは、通信システム事業、情報システム事業、ネットワークソリューション事業、データソリューション事業の基幹4事業の持続的成長と拡大を目指し、ITの進化や市場の変化に柔軟に対応し、成長分野に注力するとともに各事業間で連携を図りながら、顧客

満足度が最大となるようなサービスの提供に取り組みました。また、これら基幹事業に加えて、急速な環境の変化に的確に対応するためにオープンイノベーションを継続的に推進し、他社とのアライアンスを含めたITの新たな活用方法や価値の高いサービスなど独自のプロダクトやソリューションの創出に取り組みました。

このような取り組みの結果、売上高17,102百万円（前期比5.4%増）、営業利益1,544百万円（同9.1%増）、経常利益1,717百万円（同10.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益957百万円（同21.0%増）となり、当期も増収増益を達成し、売上高・営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益において、過去最高を更新することができました。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2016年6月

代表取締役社長 小森 俊太郎

第49期連結業績	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
(2016年3月期)	17,102	1,544	1,717	957
(単位：百万円)	(前期比5.4%増)	(前期比9.1%増)	(前期比10.2%増)	(前期比21.0%増)

※「企業結合に関する会計基準」等を適用し、当期より、「当期純利益」を「親会社株主に帰属する当期純利益」としております。

次なる成長に向け、企業理念体系を見直すとともに 顧客ニーズにフィットした組織変更を行いました。



Q：2015年度の業績はいかがでしたか。

2015年度の業績は、基幹4事業の持続的成長を目指し、市場の変化と顧客ニーズに対して柔軟に取り組んだ結果、3期連続で増収増益を達成し、過去最高益を更新しました。特に、通信システム事業でのカーエレクトロニクス関連とNID東北での電力関連が好調だったことが増収の大きな要因です。また、すべての事業部が収益性と効率性を意識した結果、増益に結びつきました。

カーエレクトロニクスと医療分野では、IoT (Internet of Things) がトレンドであり、大きな成長エンジンとなっています。特に自動車では自動運転技術の実用化など、急速にインテリジェンス化が進んでいます。これらはソフトウェアが重要な鍵

を握るため、当社が貢献できる領域は非常に大きくなっています。ネットワークソリューション事業をはじめ、ほかのセグメントについても、これまでの主要顧客からの受注が安定して推移しました。

Q：企業理念体系の見直しについて お聞かせください。

価値観が複雑化／多様化した現代社会においては、社員がどのような場面においても、自立的に方向性を見失わずに業務に集中できるようにする必要があります。そこで今般、会社が向かう方向をわかりやすく示すために、企業理念体系を見直しました。根本となる企業理念は、「ヒューマンウェア～人が真ん中のしあわせな社会を知恵と技術で拓いていきま

す。」で、会社が向かう方向性は変わっていませんが、当社のこれまでの歩みや基本的な価値観をベースに改めて社員がわかりやすいよう整理、体系化しました。プロジェクトチームを発足し、約1年をかけて企業理念からビジョン、信条、経営基本方針、行動基準へと落とし込んで改めて体系化しました。2016年3月にほぼ完成し、現在は社員に浸透させていくステータスです。

さらにビジョンをよりわかりやすく、コンパクトにまとめたコーポレートメッセージ、「できるわけある」を策定しました。独創的でインパクトのあるメッセージは、お客様に好評です。また社内においても、「困難に直面しても諦めずに、『できるわけを見つけよう』という気持ちが湧いてくる」と好評で、一定の効果が上がりつつあります。

**Q：組織変更も行いましたが、
その狙いなどをお聞かせください。**

2016年4月に抜本的な組織変更を行いました。その狙いは、複雑かつ多様化する市場環境に対して機動的に対応することであり、お客様のニーズにこれまで以上に素早く的確に応えることに尽きます。

これまでは通信システム事業と情報システム事業を分けて事業展開してきましたが、お客様から見れば一つの開発案件であっても、両事業部にまたがる共同案件が増加しました。たとえば一部の自治体で実施されている「電動アシスト付自転車のシェアリングシステム」は、自転車利用者側の開発を担当する通信システム事業部とサーバー側の開発を担当する情報システム事業部とが協業してきました。お客様にとって使いやすい組織に再編することが必要だと考えました。

具体的には、これまでの通信システム事業部と情報システム事業部を、エンベデッドソリューション

事業部、ICTイノベーション事業部、フィナンシャルシステム事業部の3事業部に再編し、ネットワークソリューション事業部を含めた4事業部門としました。

エンベデッドソリューション事業部では、カーエレクトロニクスをはじめ、医療や公共分野に取り組み、フィナンシャルシステム事業部は生損保と共済、クレジット系の事業を展開します。ICTイノベーション事業部では、今後も大きな成長が期待できるIoT分野において、ビッグデータ解析などの領域をカバーしていく計画です。なお2016年度から、セグメントは5事業に変更します。

加えて、新規ビジネスの研究を目的としたR&D推進室と品質管理室内に技術教育課を新設しました。技術教育課の設置目的は、優秀なプロジェクトマネージャー育成です。プロジェクトの大規模化が顕著であり、品質と生産性向上にはプロジェクトマネージャーの力量が重要となってきています。そこで、いくつかの段階に分けて育成を加速させることにしました。

**Q：2016年度の課題と展望について
お聞かせください。**

足元の経営環境は、国内外の経済情勢が引き続き先行き不透明であると認識しています。これに伴って企業のIT投資は、システム強化の更改や商品・サービスの競争力強化のIT活用などに厳選されていくことが予想されます。一方、ビジネスパートナーを含めた技術者が逼迫した状態が継続するものと考えます。

当社では、生産性の向上に努めながら、長年お取引をいただいているお客様の期待に的確に応えることにより、継続して受注を獲得し、さらに安定的な成長を目指していきます。

また当期末における普通配当を1株当たり3円増額し1株当たり50円とさせていただきました。今後も企業価値を高めることにより、株主の皆様のご期待に沿えるよう努力してまいります。

第50期連結業績予想	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
(2017年3月期)	17,500	1,575	1,675	1,150
(単位：百万円)	(前期比2.3%増)	(前期比2.0%増)	(前期比2.5%減)	(前期比20.2%増)

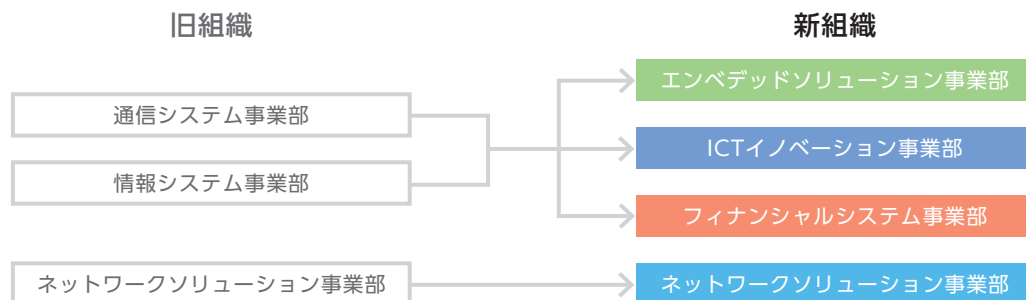
よりお客様のニーズにフィットした体制へと、組織変更を行いました。

IoTやクラウドなど、市場環境はドラスティックに変化し、お客様のご要望もより複雑になってきています。

そこでお客様のニーズに、よりスピーディに的確にお応えすべく、抜本的な組織変更を行いました。

① 事業部再編

通信システム事業部と情報システム事業部をエンベデッドソリューション事業部、ICTイノベーション事業部、フィナンシャルシステム事業部の3事業部に再編し、これまでのネットワークソリューション事業部を含めた4事業部門に変更しました。



エンベデッドソリューション事業部

カーエレクトロニクス分野を重点分野と位置付け、医療分野、公共インフラ分野など、組込み技術を基盤として、人と情報を繋ぐソリューションに幅広く取り組んでいます。

ICTイノベーション事業部

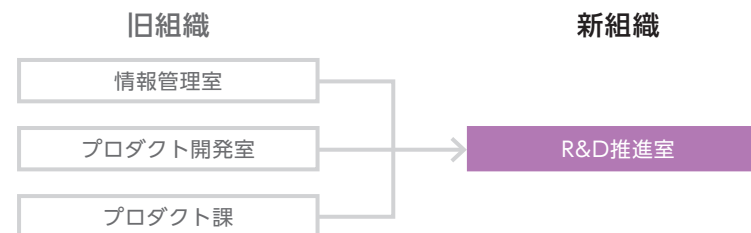
モバイル機器、ホームエレクトロニクス、各種センサー機器、社会インフラ、企業システム等の開発から、それぞれを繋ぎ、IoT、ビッグデータ活用のスマート社会の実現に取り組んでいます。

フィナンシャルシステム事業部

金融システム分野において、多様化するシステム構成と、高い業務知識が求められる環境下、豊富な業務知識と最新IT技術を融合し、「金融ITシステム専門家集団」を組織化することで、お客様の新たなニーズ実現に取り組んでいます。

② 部課編成の変更

情報管理室とプロダクト開発室、プロダクト課を統合し、新ビジネスの研究を目的としたR&D推進室を新設しました。



事業内容

お客様の多様なニーズにお応えする、 N I Dの事業内容

それぞれの事業の強みを活かしつつ、ITの進
化や市場の変化に柔軟に対応していきます。

【データソリューション/プロダクト/人材派遣など】

データソリューション

- データエントリー
- イメージエントリー
- BPOプロダクト



プロダクト

- グラスライブ・コネクト
- MIEL
- 水土里ネット会計



人材派遣



【ネットワークソリューション事業】

ITシステム運用

- システム/ネットワーク
運用・保守
- リモート監視
- ITシステム運用設計・改善
- セキュリティ運用・管理

ITシステム構築

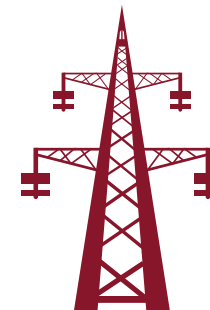
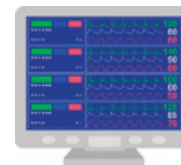
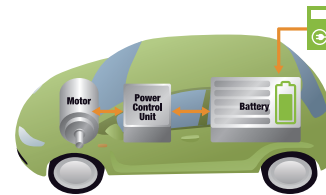
- システム構築/導入支援
- ネットワーク・サーバ設計/
構築
- サーバ仮想化環境構築
- クラウドマイグレーション



組込&制御

- カーエレクトロニクス
- メディカルシステム
- ワイヤレスシステム
- ファクトリー
オートメーション
- エンベデッドシステム

【エンベデッドソリューション事業】



インフラ

- 電力系システム
- 旅行代理店システム

モバイル&クラウド

- モバイルソリューション
- デジタルネットワーク家電
- クラウドサービス
ソリューション



【ICTイノベーション事業】

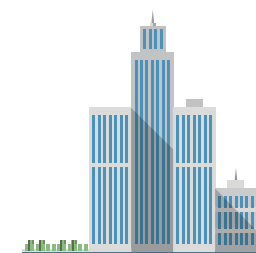
フィナンシャル システム事業

【フィナンシャルシステム事業】



金融システム

- 生命保険システム
- 損害保険システム
- 共済システム
- クレジットカードシステム
- 証券システム



ビジネスシステム

- 官公庁システム
- 物流システム

NIDの存在意義と目指すべき方向を表した、新たな企業理念体系

新たな企業理念体系は、「NIDグループの存在意義は?」、「どういう未来を描いていくべきか?」「NIDグループにとって変えてはいけない価値は何か?」を出発点に、NIDグループのあり方と目指すべき方向を改めて見直し、わかりやすい言葉で表現・整理したものです。近い将来目指すべき姿として「ビジョン」を、また、「ビジョン」をわかりやすく内外へ伝えるためのメッセージとして「コーポレートメッセージ」を、それぞれ策定しました。

以下に、ビジョンとコーポレートメッセージを紹介します。

■ビジョン

新しい発想から、
うれしい答から、
輝かしい未来を。

価値観や文化が異なっても、一人ひとりが満足でき、
スムーズにコミュニケーションを取り合える未来。
多種多様な個が豊かに混在でき、
同じ時代をしあわせに過ごせる世界。
そのような社会を支えるのは、
今はまだない新発想の情報技術です。
わたしたちは、しきたりや常識や枠などに縛られず、
自由かつ独創的に考え、ときには思い切った挑戦もします。
今まで培ってきた知識と技術を発展進化させ、
誰にとってもうれしい答を出し続けていきます。

■コーポレートメッセージ

できるわけある

「できるわけない」では新しいものは生まれない。

「できるわけ」を求め・考え・探し・
創り出さなければ輝かしい未来は拓けない。

NIDは「ある」を見つけるために
培ってきた知識と技術を発展進化させつづけます。

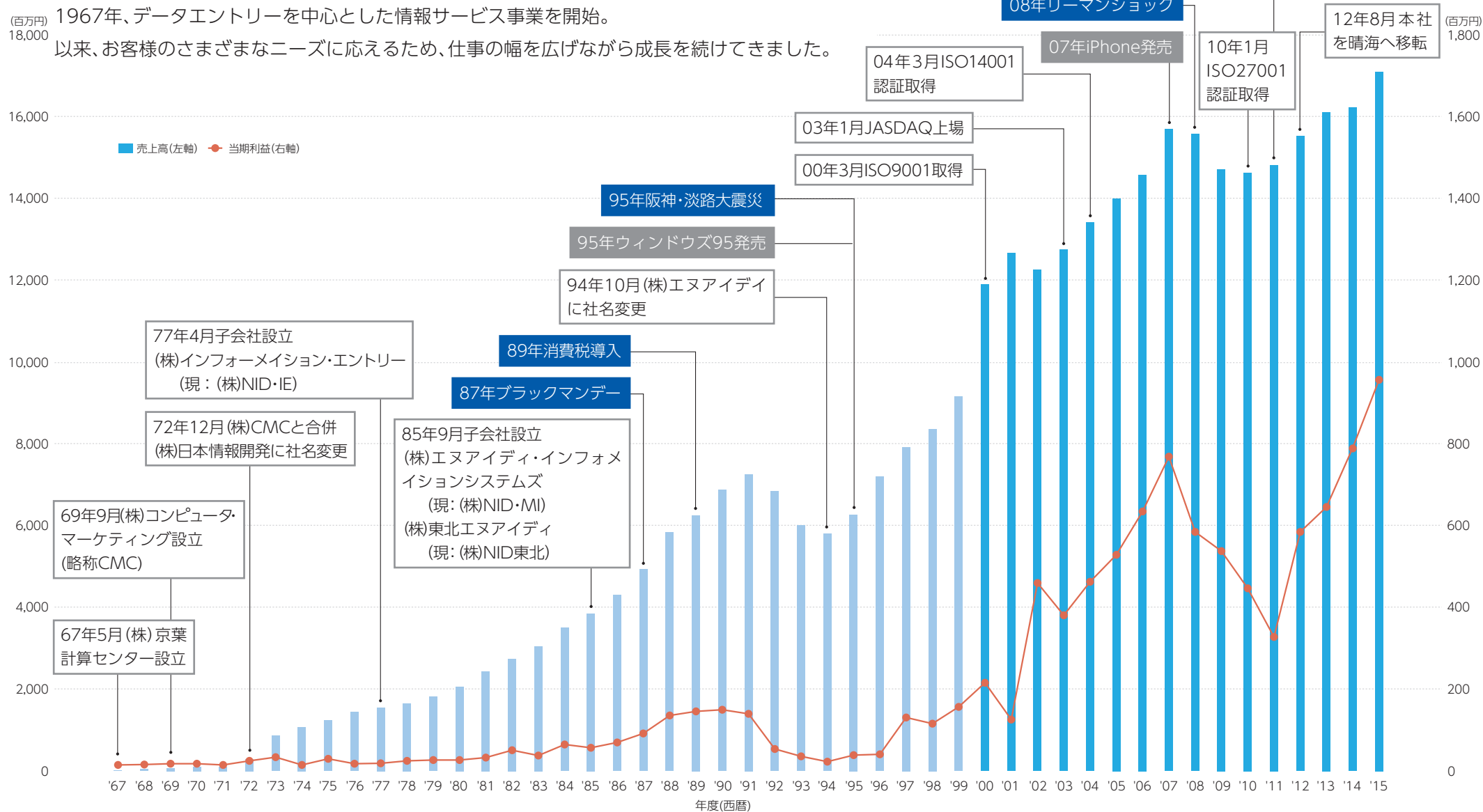
新しい発想で、かつてない知恵で、
人が真ん中のしあわせな社会をつくりたい。

できるわけある NID です。

企業理念についての詳細は、
当社ウェブサイトからご覧いただけます。

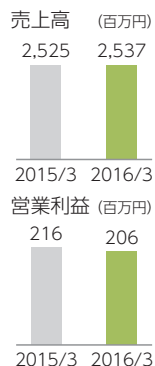
トップページ：<http://www.nid.co.jp>にアクセスいただき、
会社情報＞企業理念のページをご覧ください。

独立系の情報サービス企業として、一步一步、着実に成長



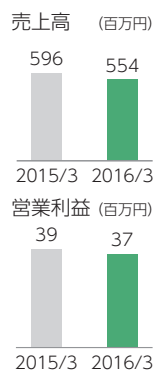
※2000年度(第34期)より連結表示しております。

セグメント別状況



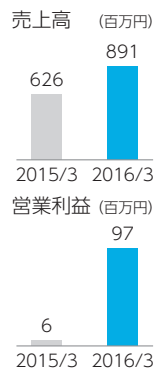
NID・IS

当事業では、データソリューションにおいては生損保関連の受注が減少した一方、システム開発においては製造業関連の主要顧客からの受注が増加しました。営業利益は、販管費の増加により減少しました。この結果、売上高は2,537百万円(前期比0.5%増)、営業利益は206百万円(同4.8%減)となりました。



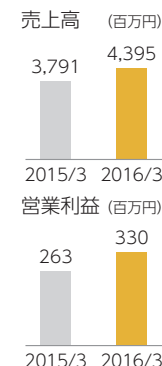
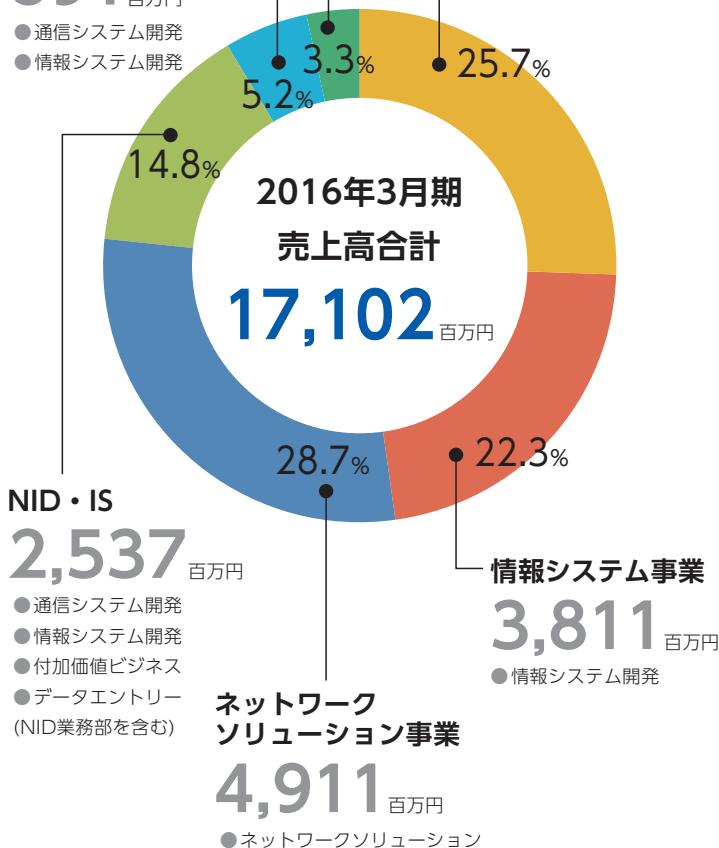
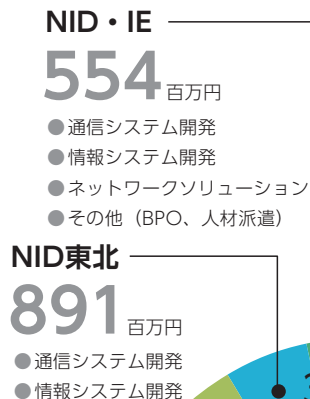
NID・IE

当事業では、生損保関連及び製造業の主要顧客からの受注が減少しました。この結果、売上高は554百万円(前期比6.9%減)、営業利益は37百万円(同4.3%減)となりました。



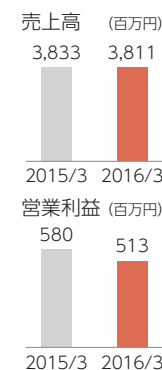
NID東北

当事業では、電力関連の主要顧客からの受注が増加しました。また、前期発生した不採算案件の収束により利益が改善しました。この結果、売上高は891百万円(前期比42.1%増)、営業利益は97百万円(同1,330.9%増)となりました。



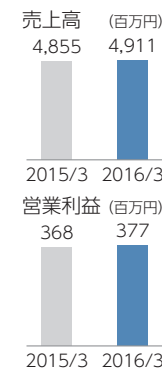
通信システム事業

当事業では、カーエレクトロニクス関連、モバイル関連の組込み開発の受注が増加しました。この結果、売上高は4,395百万円(前期比15.9%増)、営業利益は330百万円(同25.5%増)となりました。



情報システム事業

当事業では、受注がほぼ横ばいで推移した一方、一部の案件の収益性低下などにより、営業利益が減少しました。この結果、売上高は3,811百万円(前期比0.6%減)、営業利益は513百万円(同11.6%減)となりました。



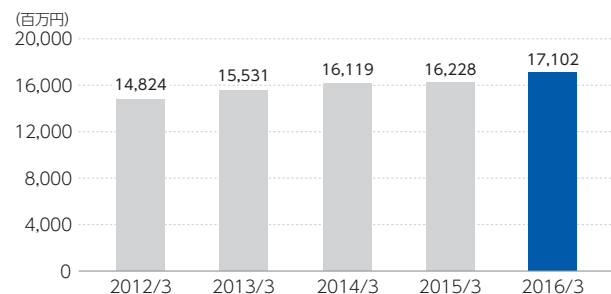
ネットワークソリューション事業

当事業では、運輸業や生損保の主要顧客からの受注が安定的に推移しました。この結果、売上高は4,911百万円(前期比1.2%増)、営業利益は377百万円(同2.4%増)となりました。

財務ハイライト（連結）

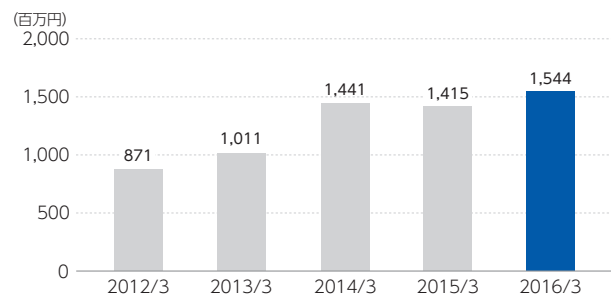
売上高 **17,102** 百万円

通信システム事業とNID東北の受注が好調に推移したことやネットワークソリューション事業が安定的に推移したこと等により、前期比5.4%増の171億2百万円となりました。



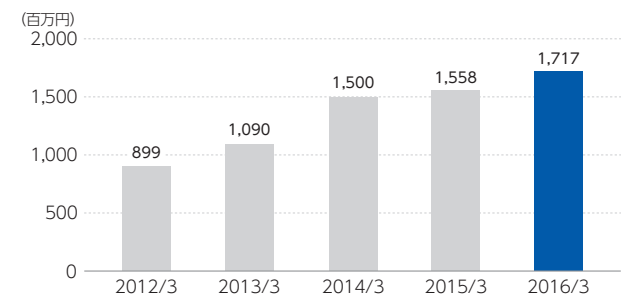
営業利益 **1,544** 百万円

通信システム事業とNID東北の営業利益が前期を大幅に上回ったこと等により、前期比9.1%増の15億44百万円となりました。



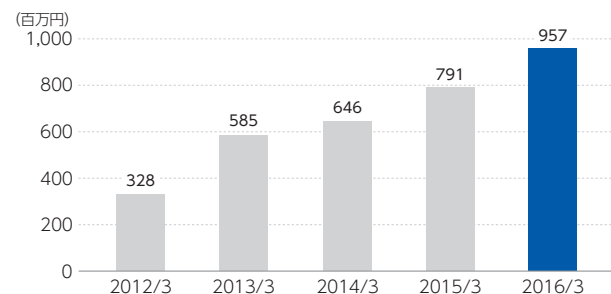
経常利益 **1,717** 百万円

営業外収益が前期を上回ったこと等により、前期比10.2%増の17億17百万円となりました。



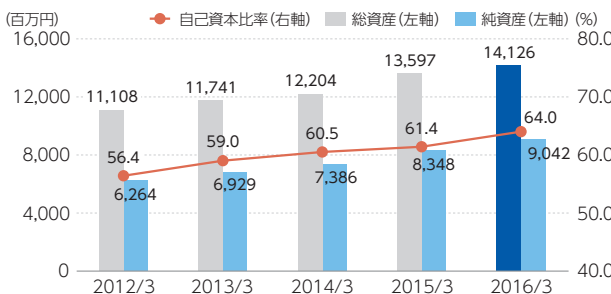
親会社株主に帰属する
当期純利益 **957** 百万円

特別損失が前期を上回った一方で、税金費用が前期を下回ったこと等により、前期比21.0%増の9億57百万円となりました。



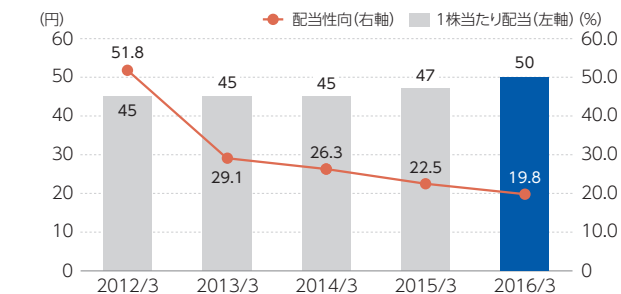
総資産 **14,126** 百万円
自己資本比率 **64.0** % 純資産 **9,042** 百万円

総資産は、前期末に比べ5億28百万円増加し141億26百万円、純資産は、前期末に比べ6億93百万円増加し90億42百万円となりました。この結果、自己資本比率は前期末から2.6ポイントアップし、64.0%となりました。



1株当たり配当／配当性向 **50** 円 **19.8** %

配当につきましては、安定した配当を継続することを基本方針としております。本年は、最近の業績や今後の見通し、株主の皆様への利益還元等を総合的に勘案した結果、前期より3円増額の1株につき50円の配当を実施することを決定いたしました。今後も安定した配当を継続できるような堅実な経営に努めてまいります。



連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

（単位：千円）

科 目	前 期 (2015年3月31日現在)	当 期 (2016年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	9,800,839	10,268,478
固定資産	3,797,107	3,857,805
有形固定資産	256,059	263,040
無形固定資産	133,437	117,291
投資その他の資産	3,407,610	3,477,473
資産合計	13,597,946	14,126,283
負債の部		
流動負債	2,554,899	2,327,851
固定負債	2,694,078	2,756,056
負債合計	5,248,978	5,083,908
純資産の部		
株主資本	7,898,322	8,677,116
資本金	653,352	653,352
資本剰余金	488,675	488,675
利益剰余金	7,982,725	8,761,870
自己株式	△ 1,226,430	△ 1,226,780
その他の包括利益累計額	450,646	365,258
純資産合計	8,348,968	9,042,375
負債純資産合計	13,597,946	14,126,283

連結損益計算書（要約）

（単位：千円）

科 目	前 期 (自 2014年4月 1 日 至 2015年3月31日)	当 期 (自 2015年4月 1 日 至 2016年3月31日)
売上高	16,228,783	17,102,693
売上原価	12,944,734	13,699,060
売上総利益	3,284,049	3,403,632
販売費及び一般管理費	1,868,874	1,858,995
営業利益	1,415,174	1,544,636
営業外収益	160,043	184,072
営業外費用	16,543	11,156
経常利益	1,558,674	1,717,552
特別利益	2,247	42,093
特別損失	42,928	147,722
税金等調整前当期純利益	1,517,993	1,611,924
法人税、住民税及び事業税	595,509	615,332
法人税等調整額	131,318	39,525
当期純利益	791,165	957,065
親会社株主に帰属する当期純利益	791,165	957,065

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：千円）

科 目	前 期 (自 2014年4月 1 日 至 2015年3月31日)	当 期 (自 2015年4月 1 日 至 2016年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,062,808	559,812
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 645,032	△ 173,642
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 174,117	△ 185,141
現金及び現金同等物の増減額	243,658	201,028
現金及び現金同等物の期首残高	6,029,485	6,273,144
現金及び現金同等物の期末残高	6,273,144	6,474,172

会社概要（2016年3月31日現在）

社 名 株式会社エヌアイディ
英 社 名 (Nippon Information Development Co., Ltd.)
所 在 地 〒104-6029
(本 社) 東京都中央区晴海 1-8-10
晴海アイランドトリトンスクエア X棟 29階
TEL: 03-6221-6811 (代)
FAX: 03-6221-6812

設 立 1967年5月
資 本 金 6億5,335万円
役 員 取締役最高顧問 小 森 孝 一
(2016年6月27日現在) 代表取締役会長 鈴 木 清 司
代表取締役社長 小 森 俊太郎
専 務 取 締 役 馬 場 常 雄
常 務 取 締 役 北 雅 昭
取 締 役 盛 満 敏 昭
取 締 役 石 井 廣
取 締 役 加 藤 政 次
取 締 役 濱 田 清^{*1}
常 勤 監 査 役 千 保 郁 夫
監 査 役 千 年 雅 行^{*2}
監 査 役 松 山 元^{*2}

※1.濱田氏は社外取締役であります。

※2.千年氏及び松山氏は社外監査役であります。

社 員 数 単体935名 連結1,376名
事 業 内 容 ・システム開発
・ネットワークソリューション
・データソリューション
・ソフトウェア製品開発、販売

グループ会社 (株)NID・IS^{*}
(株)NID 東北
(株)NID・IE

※2016年 4 月 1 日付で、(株)NID・ISは(株)NID・MIに商号を
変更しております。

主要取引銀行 三菱東京UFJ銀行
みずほ銀行
千葉銀行
りそな銀行
三井住友銀行
三菱UFJ信託銀行
佐原信用金庫

※「企業結合に関する会計基準」等を適用し、当期より、「少数株主損益調整前当期純利益」は「当期純利益」に、「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」としております。

株式の状況、株主メモ、株主様向けアンケート

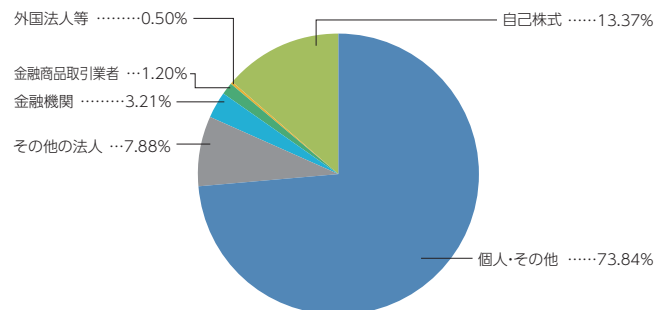
株式の状況 (2016年3月31日現在)

(1) 発行可能株式総数	17,479,320株
(2) 発行済株式の総数	4,369,830株
(3) 株主数	1,308名
(4) 大株主	

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
小森俊太郎	631,560	16.68
小森孝一	549,282	14.51
エヌアイディ従業員持株会	374,896	9.90
株式会社クリエートトニーワン	233,700	6.17
小澤忍	150,032	3.96
鈴木清司	105,692	2.79
一般財団法人小森文化財団	100,000	2.64
馬場常雄	73,950	1.95
菅井源太郎	72,792	1.92
小森都子	60,540	1.60

(注) 1. 当社は、自己株式を584,418株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



【商標について】 記載されている製品名などの固有名称は、各社の商標または登録商標です。

株主メモ	
事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQ市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.nid.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社 エヌアイディ

〒104-6029 東京都中央区晴海 1-8-10
晴海アイランドトリトンスクエア X棟 29階
TEL:03-6221-6811(代) FAX:03-6221-6812

<http://www.nid.co.jp>

株主様向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2349

いいかば 検索

空メールによりURL自動返信
kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます
QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media)についての詳細 <http://www.a2media.co.jp> ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を進呈させていただきます

UD
FONT
見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。